



いわて医療通信
肝臓の疾患⑦

A型肝炎

現在までに色々な肝炎について記載してきましたが、ここでB型、C型肝炎以外のものについても述べたいと思います。

実はA型肝炎というものも存在します。この肝炎はA型肝炎ウイルス(HAV)の感染による病気です。一過性の急性肝炎が主な症状で、感染が治った後に、麻疹や水疱瘡の後のような強い免疫が残されま

す。HAVは、潜伏期間が約2〜7週間(平均4週間)と長めです。

感染から1カ月くらいして、次のような重めの風邪に似た症状がみられます。①38度以上の急な発熱②全身のだるさ③食欲がない④吐き気、嘔吐⑤腹痛、下痢です。その数日後には、黄疸(目や皮膚が黄色くなる症状)があらわれます。まれに劇症肝炎という重篤な病態に移行することもあります。HAVは症状が消えても、数週間はウイルスの排出があります。他人に感染させないよう注意しましょう。

HAVは全世界に分布していて、糞便中に排泄され、糞口感染で伝播するので、衛生環境が悪い発展途上国に似た地域では乳幼児期の感染が主となっており、このような地域では肝炎の発生率が低く、流行もありません。1988年に中国上海市で30万例の大流行が発生しました。近年の日本では、下水道などの整備によって、大規模な流行発生は起こっていません。

ただ、まだ安心は出来ません。HAV感染の少ない状態が長期間続くことになると免疫である抗体を持たない人が増加します。日本では50歳以下での抗体陽性者は極めて少ない状況です。盛んになった国際交流や、発展途上国からの輸入食料品の増加など、A型肝炎の感染予防対策は社会的に重要な問題として認識されるようになってきました。

最近では、飲食店を介した感染(カキやエビ)や、海外渡航者(特に東南アジア)の感染がみられています。感染経路に気をくばり、感染を未然に防げるよう注意しましょう。

